

恩師探訪

能代高校において教鞭をとられた先生方に当時の思い出や母校への思いを綴っていただく「恩師探訪」のコーナー。今回は金谷晴隆先生に筆を振るっていただきました。

「母校」・「恩師」と共に

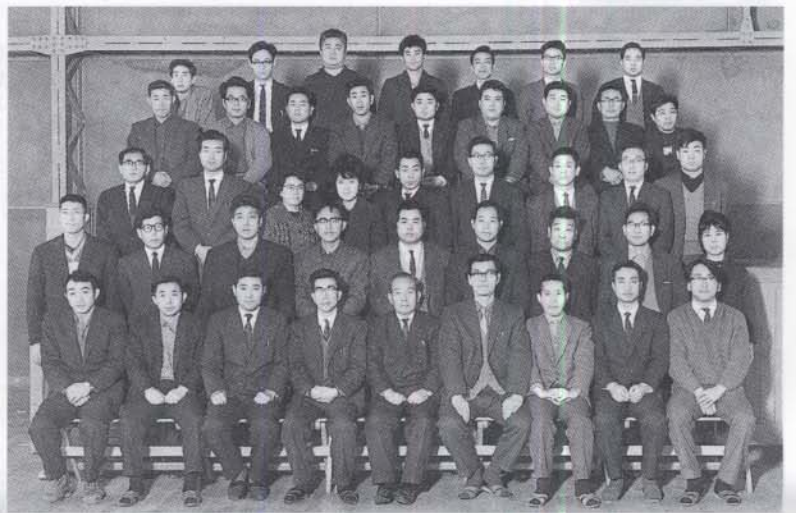
金谷 晴 隆 先生
(第二十四期・新制六期)



昭和二十六年、初めての男女共学で能代南高等学校に入學した。四十一名の才媛美女軍団(卒業時は三十六名)は、AとB組にだけ入り、我々男性だけのF組は不満であったが、一週に数時間、選択によ

昭和二十六年、初めての男女共学で能代南高等学校に入學した。四十一名の才媛美女軍団(卒業時は三十六名)は、AとB組にだけ入り、我々男性だけのF組は不満であったが、一週に数時間、選択によ

つて組を解体しての教室移動があり、つかの間の男女同室があつた。三年生の時、能代高校と改称され、初めての卒業生となつた。当時の恩師には殆んどアダ名がついている。ドンキー・サワガニ・モガ・ナフ・パンチョー・ヤマイモ・ナットー・タマシ・クマチュー・トツチャ・アメ・ツネ・ボンス・ダイジョー・イセツコ・タゲジュー・アツパ・アネーチャー……十年後の昭和三十九年三月、能代北高の玄関先に能代高校の数学の恩師であるクマチュー先生が来られ、私が呼ばれた。



「能代高校にくる気あるガア」「行きてエシ」「ヨシ、アドはマガセテオケ」……職員室に戻つたら、数学科主任「断つてきたベエ」「断わらねがつたシ」……そして転勤、樽子山の母校に十年、高瑞の新校舎に八年お世話になることになつた。右の写真は、昭和三十九年四月の職員写真です。なんと、十年前の恩師が十四人もいたのだ！(写真に入っていない者もいるが、一向に気にしないようだった)。

なにかにつけ、丁寧で時間のかかる北高とちがって、能代高校は、会議の簡潔なこと・学年部会の少ないこと・教員の一人一人が「一国一城

の主あるじ」然としてゐるのにびつくりし、感心もした。なによりも生徒がよくあつた。たまに二日酔で苦しい時など、黒板に課題をなぐり書きして衛生室(保健室)へ逃げこんだものだが、生徒達はしつかりやつてくれた。「磨かれていないままのリンゴ」これが職員間で生徒を評する時の共通理解だつた。恩師の先生方とよくマージャンをした。その道のベテランが多く、初心者の方は、当然ながらいつも大枚をまきあげられるのだつたが、終つてからダイジョー・タゲジュー先生は、夜の巷につれて行き、おごってくれるのがしばしばだつた。

このほか、三年間中断の「十里強歩」・十年間の硬式野球部長時代(鬼の太田監督と二度の甲子園出場)・昭和四十年代の国の文教政策と労働組合運動など思い出はつきない。

十八年間、楽しく充実した良き時代であり、生意気でおぼがままな私を大目に見てくれ、育ててくれたのは、恩師であり、生徒であり、母校であつた。

人情紙の如しという言葉を出させる世上、「同窓生」「同窓会」とは、何ともほのぼのとした温かさを感じていい響きである。一面識がなくても、また年令に親子程の差があつても同窓生と知つた時から何とも言えない親近感が湧いてくるのも不思議である。

本来、日本人の心の中には「朋有り、遠方より来たる、また樂しからずや」が息づいているからではないか。同じ目標を目指す者を「待つ心」がいい。だが一方、「長幼の序」という言葉がある。つね日頃忘れてゐるが、死語にさせたくない心の言葉である。これなども同窓会とは切つても切れない、日本人の美しさを言い表している。

約三十年前、松下幸之助氏は、「崩れゆく日本をどう救うか」という著書の中で、日本がなぜ経済大国になれたかという問題について「国民が思いを同じにしたから」と言い切っている。ますます高校の有り様が変わる中で、能代高校のさらなる発展を支える道は、唯ひとつ、それは同窓生が「思いを同じくすること」である。

校庭を彩る松の緑の万古の

「不易の光」



佐藤 隆
(第二十三期)

同窓生から

光、校庭に天空を指さして立つ自在の像の心、これらは真に能代高校の過去から現在を貫いて未来へと流れる意気である。沖より寄せる巨涛の如く、止めることも、曲げることも出来ない「王道を歩む」姿である。母校の限らない発展を祈る。

「ジャンケンに勝つ」



船山 稔
(第三十三期)

昭和三十八年の卒業。樽子山の木造校舎、その当時窓ガラスにはまだ「能中」の名が所々に残っていました。現在のあの立派な能代高校の建物にセピアカラーになった木造の学び舎が重なってみえてくるのは私だけでしょうか。文武両道、秋田県有数の進学校、次の世代を担う優秀な人材が数多く輩出されることを期待してやみません。硬式野球部県北大大会優勝おめでとうございます。甲子園出場を決め「応援頼む」の手紙が届く事を待ち望んでいます。

やがて歩む道、避けて通れない道。老いるということは何と漠然と考えていたのだが現在ホームヘルパー二級講座に通っています。美容師の免許を持ったホームヘルパー。ホームヘルパーの資格を持った美容師で高齢化社会のニーズに対応したい、これが受講動機です。還暦を目前にして教科書に向かうことに

は辛いものを感じます。小生の場合老いはまず頭からの現実痛感!!読んでも入らないし残らないのです。授業の終わりに宿題。おむつを当て蒲団の上で失禁した瞬間の気持ち、時間が経過した時の感じを記せとのこと。先生が希望者を募ったのがだーれも拳手しませんがジャンケンして負けた人、三名に宿題のおむつが手渡されたのです。小生は勝って難を逃れたのだが果たして勝って良かったものか考えています。これは非常に大切な勉強ですとおっしゃった先生のあの一言が今でも聴えてくるような気がするのです。

「能代高校のアイディンティとは」



佐藤 達治
(第五十三期)

中学校に勤める立場から苦言を呈したい。能代高校は今どこへ向かっているのだろうか。そして生徒たちは能代高校の何を身につけ卒業するのだろうか。

というのは、中学校では毎年十月ころになると高校説明会を開く。そこで語られる能代高校の教諭の説明は、郡市内で一番魅力のないものであり、その説明から生徒の活躍する姿は見えない。ともすれば大学進学者以外は別に来てくれなくともかまわないかのような説明である。

大学に進学するだけであれば、能代高校でなくともかまわない。今春、大学に進学した教え子のうちN君は、甲子園に出場したいとの思いで、A高校に進学し、見事甲子園のマウンドに立ち大学へ進学した。また、ロボットづくりに興味があったS君は、K高校からAO入試で大学に進学した。大学側はAO入試で優秀な生徒がとれるのであれば、今後その枠を拡大したいと考えていると言う。平成十七年度から、普通科も全県一区になる。そのとき能代高校は何を魅力に中学生を取り込むのだろうか。私の心配は杞憂であろうか。

さて、少年のこの時期、勉強だけに全精力を注いだところで、そのあふれるエネルギーを消化しきれぬものではない。同業者として先生方へお願いしたい。今こそ文武両道。うまく生徒たちを導き、新しい魅力ある能代高校を築いてほしい。

「能代高校時代の思い出」



小川 明美
(第六十三期)

能代高校時代の思い出ということで、いろいろ考えてみた。一つに、甲子園出場である。私達の同期は野球部が大変活躍した年であり、硬式野球部、軟式野球部共に全国大会出場を果たした。夏の甲子園、一晩かけて臨時列車に揺られ、学年によって色の違う帽子とメガホンを持ち、応援に臨んだ。応援団を初め、プラスバンド部、先生、生徒、父兄、先輩達、そしてもちろん野球部、みんなが一つになって盛り上がった結果が一回戦突破だった。残念ながら二回戦で負けてしまったが、本当に心に残る思い出である。今でも誇りに思うし、野球部の皆様には、

感謝したいと思う。次に、能高祭である。三年の時、実行委員になり、後夜祭を担当した。後夜祭といえばマイムマイムである。手をつないで大きな円を作り踊るあの興奮した時間は忘れられない。踊りだけて終わるのは寂しいという事で、花火を上げることにした。友人の武田純子さんと二人で花火を購入したのを覚えているが、今ではその花火も打ち上げ花火になってるようで、大変うれしいことである。他にも、修学旅行で夜中まで騒いだことや、十里強歩で友人と服をそろえて歩いたこと、いろいろあるが、最後に、多くの友人達に会えたことが、最大の喜びである。来年三十路を迎えるが、何歳になっても、高校時代の思い出を胸に、変わらないでいたいと願うこの頃である。

◎松陵委員会から

今回「松陵」第十五号を発行するにあたり、原稿をお寄せいただきました方々に對して心からお礼申し上げます。今号は同窓会員名簿の作成の都合上、例年より一ヶ月以上早い発行となりました。ご好評いただいております「恩師探訪」「同窓生から」のコーナーは今後も継続していく予定です。

さて、「松陵」では引き続き同窓生の皆様からの寄稿をお待ちしています。在学中の思い出や母校への想い、または、各支部・各期同窓会の報告等、お送りください。同窓生の絆をいっそう深める同窓会誌「松陵」の紙面充実のためにご協力をお願いします。なお、原稿の送付先は能代高校内同窓会事務局まで。

松陵健児、全国の舞台へ!

母校は今……

今年度、能代高校の運動部・文化部の大会成績の中で、全国を舞台とした特筆すべきニュースとインタビュアーを紹介します。

運動部を代表して陸上部の成田祐一君（三年B組）。成田君は六月に行われた東北高校陸上男子走り高跳びで二メートル三センチを記録、見事優勝しインターハイにも出場しました。文化部を代表するのは放送部の能登万祐子さん（三年A組）。能登さんは八月に福井県で行われた「文化部のインターハイ」とされる全国高校総合文化祭の放送・アナウンス部門で特別賞を受賞しました。全国を舞台に活躍した二人の声を紹介します。

◆陸上部 成田 祐一 君



だったので、野球・バレー・陸上と何でもやりました。特に走るのが好きで、中学校に入ってから本格的に陸上競技を始めた。

Q 陸上を始めたきっかけは?

A 小さな小学校（竹生小学校）

Q 大会中はいかがでしたか?

A びだったんです。でも、新人戦は二種目出られたので、高跳びにも出たところ、これがおもしろくて。それ以来、高跳びです。

◆放送部 能登 万祐子さん



福井県で八月十一・十二両日に開催された全国高校総合文化祭の放送・アナウンス部門で、能登さんが特別賞を受賞しました。



Q 今後の進路希望は?

A 就職希望です。趣味程度で陸上競技と関わっていただけら、と考えています。

昨年十一月に行われた秋田県高校放送コンクールの上位三名が出席し、全国から一三五人が参加。出場者は自作の原稿を発表し、優秀賞十人・特別賞三人を争いました。能登さんは市内の幼稚園がまとめた詩集を紹介した「心のパッチワーク」と題した原稿を発表し、見事特別賞に輝きました。

楽しかったです。運営はすべて高校生が担当していたことも驚きましたし、エネルギーを感じました。発表の仕方も独特で、県ごとに発表するんです。発表後は「秋田県はどこなところですか?」といったインタビュアーがあったり、とてもリラックスした雰囲気でした。

Q 放送部の日常の活動は?

A 私の場合は、発声練習と滑舌練習です。発声練習には三十分ほど、滑舌練習には二十分ほどの時間をかけます。

Q 放送部の活動を通して得られたものは?

A アナウンスの原稿づくりをする時は、自分の周囲に敏感にならないかならばなりませんから、常に身のまわりのいろんなことに興味・関心を示すようになりました。また、番組づくりの際には、何もないところからスタートし、みんなで一から創っていく作業が大変でしたが、同時にやりがいもありました。

進路状況一覧

平成15年4月7日最終集計

種別	年度		平成15年3月	
	男	女		
卒業生	170	116	286	
大学	公立	44	29	73
		29	59	88
	私立	2	3	5
		1	11	12
	短大	106	81	187
	進学	22	17	39
就職者	9	4	13	
	33	14	47	
未決定者(その他を含む)	170	116	286	
	116			
合計				

部活動の記録

今年度も能代高校生は、校是である「文武両道」の達成を目指して各分野で活躍を示しました。今年度の運動部・文化部の活動状況の概略をご報告いたします。なお、個人成績は紙面の都合上、各部から特筆すべき成績のみを報告していただきました。

運動部の活動状況

文章内の番号は、以下の大会の種類を表しています。

- ①平成十五年度春季県北総体
- ②同春季全県総体
- ③同東北総体
- ④団体・インターハイ
- ⑤その他

個人三位 川尻亜悠子
中山美里

サッカー部

- ①三位
- ②一回戦敗退

山岳部

- ①男子 能代A 準優勝
- 女子 能代B 優勝
- ②男子 能代A 六位
- 女子 能代A 四位

バスケットボール部

- ①予選リーグ敗退
- ②ベスト16

バレーボール部 (男子)

- ①六位
- ②一回戦敗退

バレーボール部 (女子)

- ①五位
- ②一回戦敗退

卓球部 (男子)

- ①団体二回戦敗退
- 個人二位 厚木克矢
- ②団体ベスト16

卓球部 (女子)

- ①団体三位
- ②団体ベスト16

柔道部

- ①男子団体 優勝
- 女子団体 優勝
- 個人優勝男子六人
- 個人優勝女子二人

剣道部

- ①男子団体 準優勝
- 女子団体 三位
- 男子個人優勝

- 佐々木俊輔
- 小笠原妹
- ②男子団体 ベスト8
- 女子団体 予選敗退
- 剣道技術優秀賞選手賞
- 畠山寛史

- 同棒高跳び
- 三位 小林大輔
- 同混成八種四位 藤田駿
- 女子一〇〇m 四位 袴田美香
- ③男子走り高跳び優勝
- 成田祐一
- ④男子走り高跳び決勝進出
- 成田祐一

陸上競技部

- ②男子走り高跳び優勝
- 成田祐一

- ①男子団体 準優勝
- 女子団体 組手 準優勝
- 男子個人形 準優勝
- 女子個人形 優勝 田端麗
- ②男子個人形 準優勝
- 田森浩康
- 女子団体組手 準優勝

- ①男子団体組手 準優勝
- 女子団体組手 準優勝
- 男子個人形 準優勝
- 女子個人形 優勝 田端麗
- ②男子個人形 準優勝
- 田森浩康
- 女子団体組手 準優勝

- ①男子五〇〇m自由型七位
- 男子一〇〇m自由型八位
- 以上 田中基成
- 男子四〇〇m自由型九位
- 庄内康晃

- ①男子団体組手 準優勝
- 女子団体組手 準優勝
- 男子個人形 準優勝
- 女子個人形 優勝 田端麗
- ②男子個人形 準優勝
- 田森浩康
- 女子団体組手 準優勝

- ①男子団体組手 準優勝
- 女子団体組手 準優勝
- 男子個人形 準優勝
- 女子個人形 優勝 田端麗
- ②男子個人形 準優勝
- 田森浩康
- 女子団体組手 準優勝

- ①男子団体組手 準優勝
- 女子団体組手 準優勝
- 男子個人形 準優勝
- 女子個人形 優勝 田端麗
- ②男子個人形 準優勝
- 田森浩康
- 女子団体組手 準優勝

- ①男子団体組手 準優勝
- 女子団体組手 準優勝
- 男子個人形 準優勝
- 女子個人形 優勝 田端麗
- ②男子個人形 準優勝
- 田森浩康
- 女子団体組手 準優勝

- ①男子団体組手 準優勝
- 女子団体組手 準優勝
- 男子個人形 準優勝
- 女子個人形 優勝 田端麗
- ②男子個人形 準優勝
- 田森浩康
- 女子団体組手 準優勝

- ①男子団体組手 準優勝
- 女子団体組手 準優勝
- 男子個人形 準優勝
- 女子個人形 優勝 田端麗
- ②男子個人形 準優勝
- 田森浩康
- 女子団体組手 準優勝

- ①男子団体組手 準優勝
- 女子団体組手 準優勝
- 男子個人形 準優勝
- 女子個人形 優勝 田端麗
- ②男子個人形 準優勝
- 田森浩康
- 女子団体組手 準優勝

- ①男子団体組手 準優勝
- 女子団体組手 準優勝
- 男子個人形 準優勝
- 女子個人形 優勝 田端麗
- ②男子個人形 準優勝
- 田森浩康
- 女子団体組手 準優勝

- 女子個人組手 準優勝
- 川村桃子
- ③女子団体組手ベスト8
- ④男子個人形出場 田森浩康
- 女子個人組手出場
- 川村桃子

- ②個人総合三位 山田優史
- 四位 高橋弘太郎
- ③団体総合十二位
- ④予選不通過 山田・高橋

- 女子バスケットボール同好会
- ①ベスト4
- ②一回戦敗退

- 能登万祐子 三浦綾子
- テレビドキュメント部門 優秀賞
- ラジオドキュメント部門 優秀賞
- NHK杯全国高校放送コンテスト
- アナウンス部門入選
- 能登万祐子 三浦綾子
- 全国高校総合文化祭
- アナウンス部門審査員特別賞
- 能登万祐子

- 能登万祐子 三浦綾子
- テレビドキュメント部門 優秀賞
- ラジオドキュメント部門 優秀賞
- NHK杯全国高校放送コンテスト
- アナウンス部門入選
- 能登万祐子 三浦綾子
- 全国高校総合文化祭
- アナウンス部門審査員特別賞
- 能登万祐子

文化部の活動状況

- ・吹奏学部
 - ・秋田県吹奏楽コンクール 県北地区大会 銀賞
 - ・第四十一回定期演奏会 (六月)
- ・写真部
 - ・秋田県高校写真連盟展 (六月)
- ・美術部
 - ・秋田県美術展覧会 (七月)
 - ・洋画部門 入選 幸野純太
 - 飯坂圭太
- ・放送部
 - ・秋田県高校放送コンテスト 総合賞 銅賞
 - 朗読部門優秀賞 大山芽実
 - アナウンス部門優秀賞
- ・茶道部
 - ・能高祭お茶会参加 (六月)
 - ・高文連加盟 (八月)
 - ・おなごり茶会参加 (九月)
- ・書道部
 - ・全県席書大会 一等 二人
 - ・第六十五回秋田県書道展覧会 褒状 三人
 - ・税に関する作品展 金賞 二人
- ・JRC
 - ・各種ボランティア等多数参加
- ・囲碁将棋部
 - ・高校囲碁選手権戦秋田県大会 男子団体戦 二位
 - ・全国高校囲碁選手権大会 男子個人戦 水木亨
 - ・全国高校総合文化祭囲碁部門 男子個人 水木亨 (二十九位)
- ・弁論部
 - ・東北地区高校 ティベート選手権 優勝
 - ・全国高校ティベート選手権 出場

ふるさとに凱旋!!

◆オペラ歌手 齋藤忠生氏

八月十日(日)、能代市文化会館大ホールにおいて、オペラ歌手齋藤忠生さん(三十三期)の「歌とトーク」コンサートが行われました。(NPO法人能代市芸術文化協会主催・写真左)

齋藤さんは五城目町出身。能代高校卒業後上京し、大谷冽子氏等に師事、テノールの第一人者となりました。公演後、プラザ都に会場を移し、同期生らの熱烈な歓迎を受けました。



宮腰洋逸氏ご逝去

能代市長を四期十六年務められ、本校同窓会顧問でもあられた宮腰洋逸氏(二十三期)が、六月五日(休)午前五時四十五分、腸閉塞のため亡くされました。(享年六十八)

政」を掲げ、木のまちづくり、バスケの街づくり等、特色のある施策を展開しました。昨年十二月の議会で次期市長選への不出馬を表明し、今年四月二十九日に任期を終えたばかりでした。

宮腰氏は市議会議員を一期務めた後、昭和六十二年四月の市長選挙で初当選。以後、四期十六年にわたって能代市政をリード。在任中、一貫して「開かれた市中

ここに、宮腰氏の生前のご活躍を讃え感謝の念を捧げるとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。(写真は平成元年五月二十二日、プラザ都での一コマ)

◆中日ドラゴンズ監督 山田久志氏



六月二十一・二日、新しく完成した秋田県立野球場(こまちスタジアム)のこけら落としとして、プロ野球公式戦中日対広島戦が行われました。それに先立ち、同二十日(金)、秋田市彌高会館において、中日ドラゴンズ山田久志監督(三十七期)を囲む会が催されました。

会場には、県庁同窓会・同窓会秋田支部の会員等約百名が訪れ、山田監督を激

励しました。山田監督は「ただいま!」と元気に同窓生の激励に応えられ、挨拶の中で、主力選手の故障や外国人選手の不調というマインナス要因が続くが、首位を独走する阪神タイガースを追いかける意気込みを強調。会場からも大きな拍手・声援が送られました。

残念ながら、山田監督は九月九日に中日球団から休養を通告されましたが、近い将来、またユニフォーム姿が見られることを期待したいと思います。